

ベンチャーの挑戦

可能性求め異業種交流

アイデア工房

一人では無理でも仲間と一緒にならエジソンに近づくことが可能。そんな発想から仲間を集めて発明や事業化に挑戦する集団がある。

「アイデアの源泉は、なぜだろう」という問題解決型の思考法だ。そのアイデアを成長させたり、実現性を高めるうえで人的ネットワークは欠かせない。金型やメカトロニクスを手掛ける新興セ ルビック(東京・品川)の竹

内宏社長(50)の持論だ。

「発明は人を榮しませるだ いど味がある」という竹内社

「3社寄れば文殊の知恵」

で修得するや、わずか数カ月で町工場の経営者向けにかけいところの手が届く財務ソフトを作り上げてしまった。

だ。だれかがアイデアを提案すると、賛同者が知恵を集め、練り直して製品化を目指す。実際に販売にこぎ着けた場合には、売上げの一定比率を発案者と工房の運営費用に還

るのが売り物で、プレス加工機を移動式にする新発想が受けて反響を呼んだ。

東京の大田、墨田区など中小企業集積地では、治具の貸し借りや加工を委託しあう町工場同士が、額を突き合わせ

長は、根っからのアイデアマン。金型や成型機の部品に独自の工夫を加えて開発した製

品は十種にのぼり、海外の大手機械メーカーからも注文が来る。昨年パソコンを半年

「アイデア工房」である。町工場の経営者から現場の技術者、大学教授や起業家まで約六十人が参加している。いずれも竹内社長が個人的に知り合っ

て意気投合した仲間ばかり

元する。

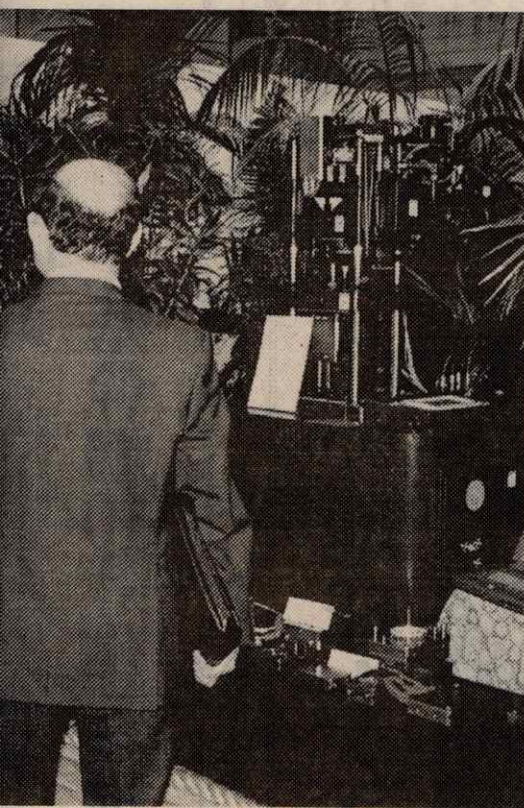
「アイデア工房」である。町工場の経営者から現場の技術者、大学教授や起業家まで約六十人が参加している。いずれも竹内社長が個人的に知り合っ

て意気投合した仲間ばかり

元する。

した製品を取り出す装置も工房で作った。アーム式ロボットのように別の動力を使わないうえに、竹内社長の発案に、二十代の若い技術者が飛びついて開発した。

「組織の制約に縛られず、本心に作りたいものを作った。夢を実現できる」。個人的に参加している一部上場の大手情報機器メーカーのエンジニアは、同工房の楽しさをこう語る。発想の身を具体化につなげる自由で平等な仕組みが、エジソン集団を支えている。



で開発した製品を説明する竹内氏(左から2人目)